

## 奈良市宿泊観光客の動向について ～「奈良大和路 キャンペーンアンケート調査」結果から～

奈良市が公表した平成 14 年 1 年間の奈良市の入り込み観光客数は 1,389 万 9 千人。前年に比べて 29 万 6 千人増え、平成 11 年以来 4 年連続の増加を記録し、観光復活の兆しがみえてきた。とはいえ、主に日帰り客中心の観光地である奈良市にとっては、宿泊観光客の増加は経済効果を上げ観光地奈良の活性化を図るためには長年の課題であることに変わりはない。

奈良市では市内の旅館、ホテルなど宿泊施設に泊まった観光客を対象に毎年アンケート調査を実施しているが、本稿においては、平成 14 年度に実施された「奈良大和路 キャンペーンアンケート調査」の結果に基づき、奈良市の宿泊観光客の動向等について、概観、分析を行ってみたい。

### 1. 調査の概要

奈良市及び(社)奈良市観光協会では、観光客誘致のため、毎年「奈良大和路キャンペーン」を実施している。当センターでは、奈良市のご協力を得て「第 21 回奈良大和路キャンペーン」(平成 14 年 12 月 15 日～平成 15 年 3 月 21 日)のアンケート調査結果のデータから、独自に奈良市の宿泊観光客の動向等について分析を試みた。

調査の概要は、次のとおりである。

奈良市内にある同キャンペーン協力旅館、ホテル等約 80 先に事前にアンケート調査用紙を配付し、宿泊客にアンケート記入を依頼。アンケート票の回収は、キャンペーン終了後、奈良市旅館組合を通じて、あるいは記入者から直接郵送にて行われた。

総回収数は 1,149 件(有効回答 1,149 件)であった。

### 2. 宿泊観光客の動向

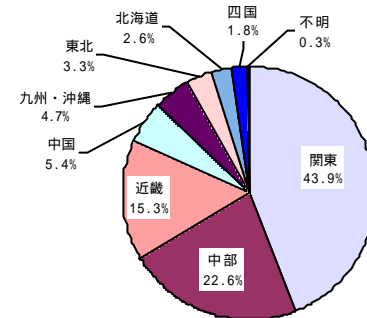
#### (1) 宿泊観光客はどこから来ているのか?

宿泊観光客(以下、「宿泊客」という)を地方別にみると(図表 1)、「関東地方」(43.9%)が最も多く、宿泊客の 4 割以上が関東地方から来ているということになる。以下、多い順に「中部地方」(22.6%)「近畿地方」(15.3%)「中国地方」(5.4%)となっている。

上位 3 地方(「関東地方」「中部地方」「近畿地方」)

からの来訪者を合わせると全体の 8 割を上回っている。

図表 1 地方別宿泊客割合



次に、宿泊客数を都道府県別にみると(図表 2)、トップが「東京都」で、以下「神奈川県」「愛知県」「埼玉県」と続いている。東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に関東地方 4 都県が上位 10 位内に入っているのが特徴的である。これら 4 都県で全体の 4 割弱を占める。

なお、上位 10 位内にはいずれも人口規模の大きい(都道府)県が入っており、宿泊客数が多くなっても不思議ではない。

そこで、都道府県別の人口対比でどのくらい奈良へ宿泊客としてきているのかを次に見てみたい。都道府県別に人口 100 万人あたりの宿泊客数をみたのが図表 3 である。首都圏からは上位 10 位内に、「東京都」(2 位)「神奈川県」(3 位)「埼玉県」(9 位)が入っており、首都圏の人たちの奈良に対する人気

の高さ、あこがれの大きさがうかがい知れる。

図表2 都道府県別宿泊客数(上位10都道府県まで)

	都道府県名	宿泊客数 (人)
1	東京都	187
2	神奈川県	125
3	愛知県	91
4	埼玉県	78
5	大阪府	74
6	静岡県	52
7	千葉県	50
8	兵庫県	43
9	北海道	30
10	岐阜県	28

図表3 人口100万人当たり宿泊人数

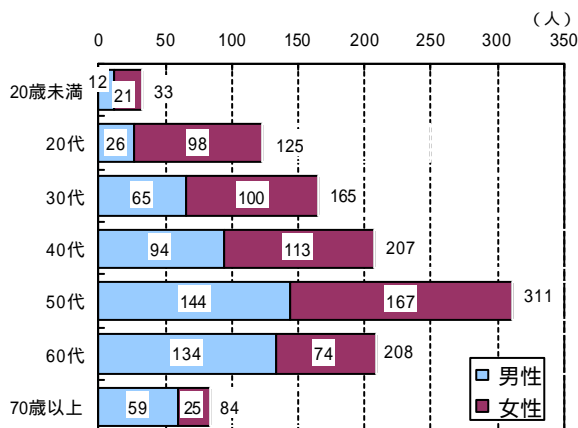
(上位10都府県まで)

	都道府県名	宿泊客数 (人)	人口100万人 当たり宿泊 人数(人)
1	島根県	12	15.8
2	東京都	187	15.5
3	神奈川県	125	14.7
4	静岡県	52	13.8
5	岐阜県	28	13.3
6	奈良県	19	13.2
7	愛知県	91	12.9
8	長野県	25	11.3
9	埼玉県	78	11.2
10	京都府	27	10.2

(2) どの年代が来ているのか?

男女別年代別の宿泊客数をみたのが図表4である。「50代」が311人と最も多く、以下「60代」(208人)、「40代」(207人)、「30代」(165人)

図表4 男女別年代別観光客数

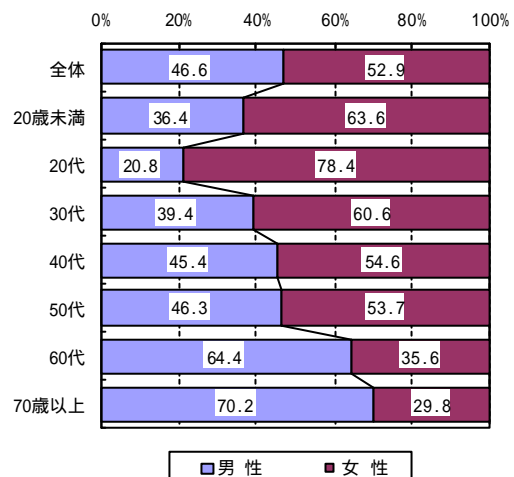


と続いており、奈良への宿泊旅行者は50代を中心とした中高年がメイン顧客層であることがわかる。

次に、旅行者数を男女別構成比でみたのが図表5である。これによると、20代では男女比がほぼ1:4と圧倒的に女性の割合が高い。これに対し、年代が上がるにつれて女性の割合が低下(逆に、男性の割合が上昇)し、60代で男女比が逆転、70歳以上では同比が7:3となっている。

(注:この調査は奈良市内の宿泊施設に泊まった人を対象にしており、同伴者がいる場合その中の1人が代表して回答しているケースも多いと考えられる。このため、アンケートでは必ずしも正確な男女比が反映されているとはいえない)

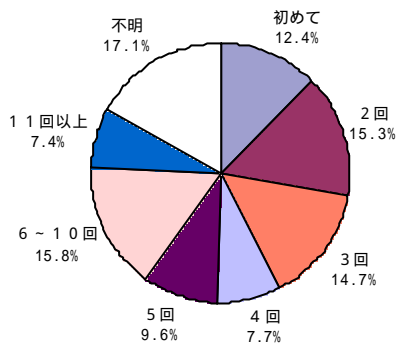
図表5 各年代別男女構成比



(3) 奈良への訪問は何回目か?

奈良への訪問回数をみたのが図表6である。これによると、奈良への訪問回数は「初めて」が12.4%と意外に少ない。これに対し「2回以上」が70.5%と圧倒的多数がリピーターである。特に、5回以上奈良に来ているという人は32.8%も占めており、奈良の宿泊観光客のなかにはかなりの「奈良マニア」の存在がうかがい知れる。

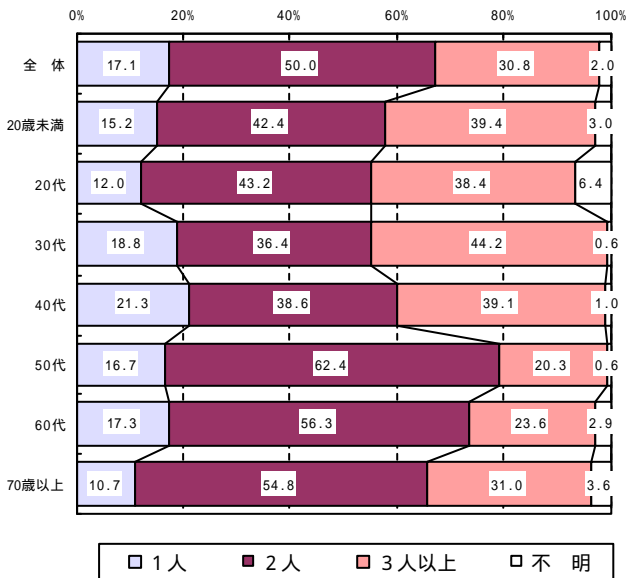
図表6 奈良への訪問回数



(4) だれと来ているのか？

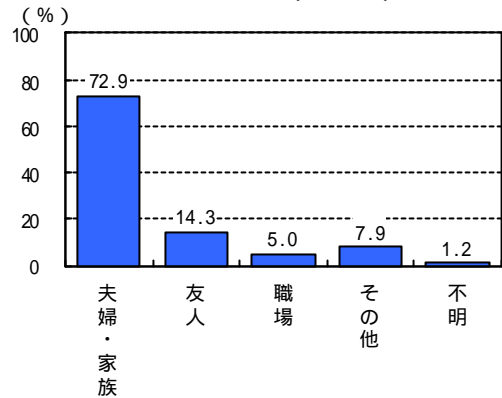
図表7は年代別の旅行人数の割合をみたものである。これによると、全体では「1人」が17.1%、「2人」が50.0%、「3人以上」が30.8%となっており、2人連れが半数を占めている。特に、50代では「2人」が62.4%を占めるなど、50代以上では「2人」が50%を上回る状況にある。

図表7 年代別旅行人数



次に、2人以上の旅行者を対象に誰と旅行しているのかをみたのが図表8である。これによると、「夫婦・家族」が72.9%と4人にほぼ3人が同伴者は「夫婦・家族」と答えている。

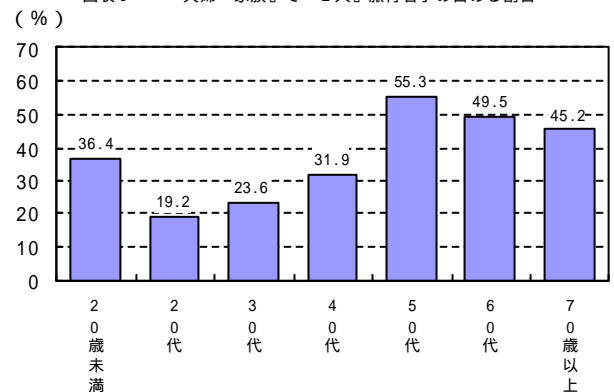
図表8 同伴者割合 (複数回答)



このように、「夫婦・家族」で奈良へ来ている旅行者が多いことがわかるが、それでは「夫婦・家族」のうち、だれと来ているのだろうか。

質問項目では、「夫婦・家族」が一括りになっているため、「夫婦2人」で来ているのか、それとも「親子」または「三世代」で来ているのかなどは、残念ながらはっきりとわからない。ただ、図表7で見たとおり、2人連れについては50代以上が半数を上回っていることから、この年代については夫婦2人連れが多いのではないかと推測される。ちなみに、各年代において「『夫婦・家族』で『2人』旅行者」が占める割合を見てみると(図表9)、「50代」(55.3%)「60代」(49.5%)など50代以上が他の年代よりも多くなっている。

図表9 「『夫婦・家族』で『2人』旅行者」の占める割合



一方、20代の2人以上旅行者の同伴者では、「友人」が33.3%と他の年代に比べて全体平均の倍以上の多さとなっているが、これは「カップル」もしくは同性の「友人」同士のグループと推測される。

( 5 ) どこを訪れているか？

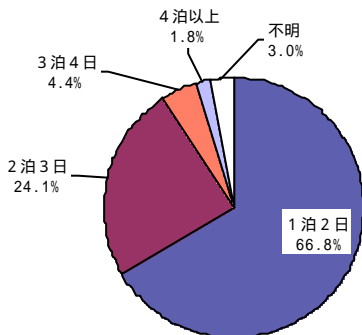
奈良市内の訪問場所では、「奈良公園周辺」が最も多く、次いで「西ノ京周辺」、「佐保・佐紀路」、「ならまち周辺」、「高畑周辺」、「柳生地区」の順となっている。

一方、奈良市を除く奈良県内の訪問場所では、トップが「斑鳩」で、以下「明日香」「長谷・室生」「山の辺・桜井」「吉野郡」の順となっている。

( 6 ) 泊数による行動パターンの違いは？

図表 1 0 は奈良市内における宿泊日数をみたものである。これによると、「1泊2日」が 66.8 %、「2泊3日」が 24.1 %、「3泊4日」が ( 4.4 % ) などとなっており、2泊3日までの短期宿泊者が9割を上回っている。

図表 1 0 奈良市宿泊日数

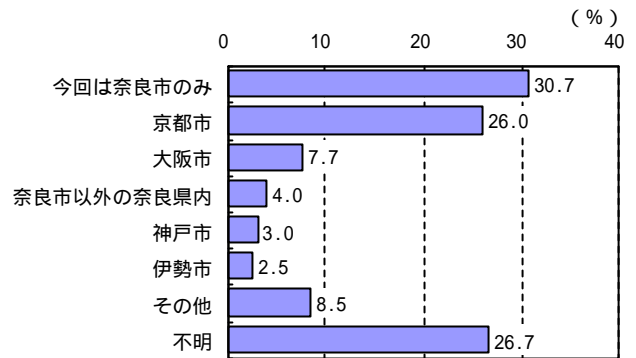


次の図表 1 1 は、宿泊客が奈良市以外でどこに宿泊したのかをみたものである。これによると、「京都市」が 26.0 %と最も多く、実に奈良市に泊まった観光客の4人に1人は京都市でも泊まっていることになる。当センターの試算によると、全日程の平均宿泊日数は 1.96 泊、うち奈良市内における平均宿泊日数は 1.46 日で、平均で 0.5 泊が奈良市以外で泊まったことになるが、その約半分が京都市で泊まったと推定される。

なお、他のところでは泊まらなかったという「今回は奈良市のみ」が約3割あった。また、「奈良市以外の奈良県内」にも泊まったという県内回遊型の

宿泊パターンは全体の 4.0 %と少数であった。

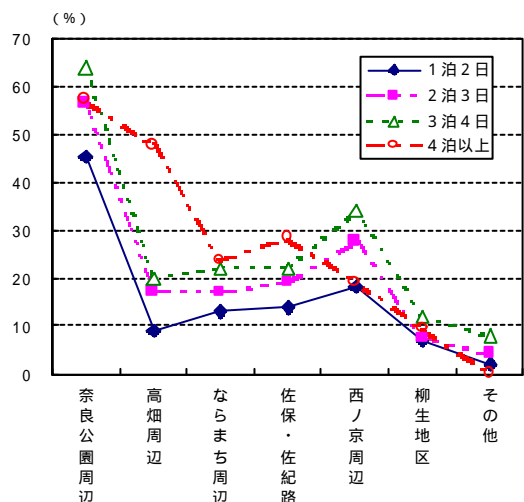
図表 1 1 奈良市以外の宿泊地



次に、奈良市内宿泊日数により、どの程度訪問地に変化が現れるかについて見てみたい。

図表 1 2 は奈良市内の観光地の訪問割合を宿泊日数別にみたものである。これによると、各観光スポットとも3泊目までは泊数が増えるに従い訪問割合が増える傾向にあることがわかる。ただ、4泊以上ではやや傾向が違っているようにみえる。奈良観光のメイン観光スポットである「奈良公園周辺」「西ノ京周辺」ではむしろ後退し、「高畑周辺」「佐保・佐紀路」が伸びている。後者の2ポイントはややマニア向けの観光スポットであるのかもしれない。

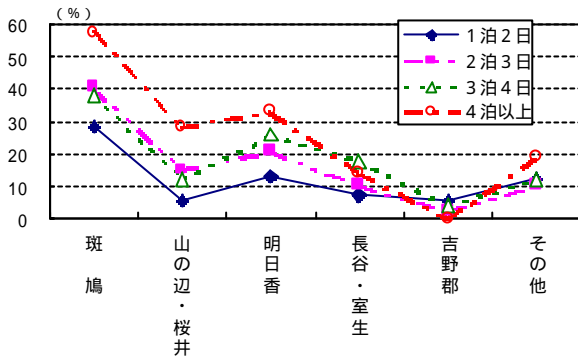
図表 1 2 奈良市内宿泊日数による訪問地の変化 (奈良市内)



次に、奈良県内の観光スポットについても見てみよう (図表 1 3)。こちら吉野郡を除き概ね泊数が増えるに従い訪問割合が増えているのがわかる。

特に、「4泊以上」では「斑鳩」「山の辺・桜井」「明日香」の伸びが著しい。

図表 1 3 奈良市内宿泊日数による訪問地の変化 (奈良県内)



以上のように、奈良市における宿泊数と市内各地並びに県内各地の訪問割合には相当程度の相関関係がみられる。

### (7) 宿泊地により訪問地はどう違うか？

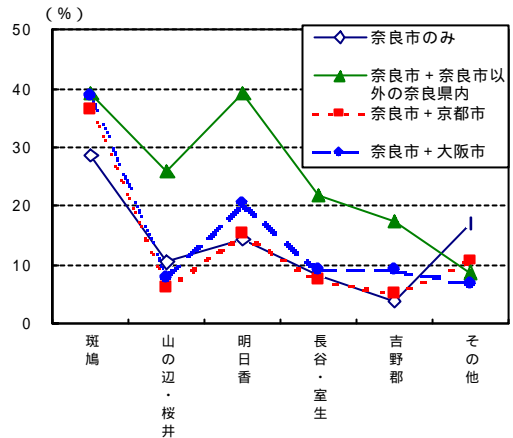
次に、宿泊地の選択による県内観光スポット訪問割合の違いについて見てみる (図表 1 4)。

これによると、「奈良市及び奈良市以外の奈良県内」に宿泊した人が最も県内の観光スポットを訪問していることがわかる。

一方、奈良市のみ宿泊した人は、前者に比べて奈良市以外にはあまり足を伸ばしていない。また、奈良市以外に京都市や大阪市に宿泊した人もほぼ同様の行動パターンを示している。奈良市のみ宿泊者の平均宿泊日数は 1.5 日をやや上回る程度で、特に宿泊日数が多いわけでもない。それゆえ、京都市や大阪市にも宿泊した人と同様に県内を回遊する余裕はあまりなかったのではないと思われる。

「奈良市及び奈良市以外の奈良県内」に宿泊した人が県内観光スポットに足を運ぶのは当然としても、前述の (6) でも見たとおり、奈良市内での宿泊日数が増えた場合でも県内回遊が増加する可能性は十分に高いと思われる。

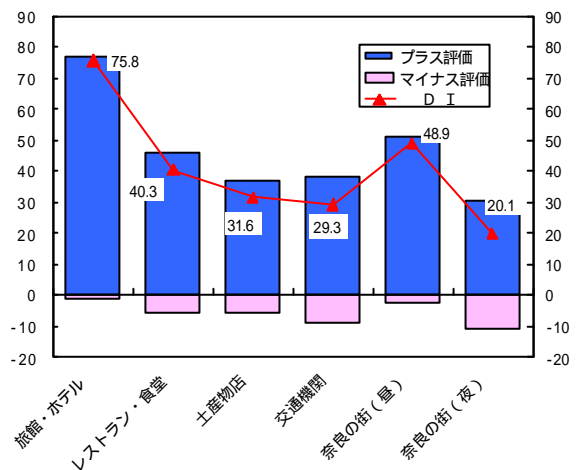
図表 1 4 宿泊地による訪問地の違い



### 3. 観光地奈良に対する宿泊客の評価

宿泊客が観光地奈良に対してどのような評価をしているかをみたのが図表 1 5 である。(DIとはプラス評価(「非常に良い」「良い」)の割合からマイナス評価(「悪い」「非常に悪い」)の割合を引いた指数)

図表 1 5 奈良市のイメージ評価



これによると、結果は概ね良好である。特に「旅館・ホテル」「奈良の街(昼)」の評価が高くなっている。ただ、「旅館・ホテル」の評価については、先にも見たとおり、奈良の宿泊客はリピーターの割合が高く、宿泊施設についても既に選別を済ませている可能性も高く、評価が高いというのはその結果とも考えられる。また、「奈良の街(昼)」とは「市内の昼の景観」「古社寺史跡」「市内の商業・飲食施



設」などが考えられ、何をさすかは判然としないが、前二者をさすものならば、奈良の観光資源そのものであり、評価は高くてもいえる。

これに対し、「奈良の街（夜）」「交通機関」「土産物店」は全体ではプラス評価ながらやや評価が低くなっている。これらは、従来からも改善の要望が多い項目であり、今後奈良が観光客を増加させるためには避けて通ることのできない項目である。

なお、この調査は奈良に宿泊した観光客、すなわち「奈良ファン」を対象に行われた調査であることを考慮すれば、上記の評価結果は良い評価の方に偏っている可能性は大きい。本来の評価はもう少し悪いものとして受け止める方が実態に近いのではないかと思われる。

#### 4．観光地奈良の問題点等 ～むすびにかえて～

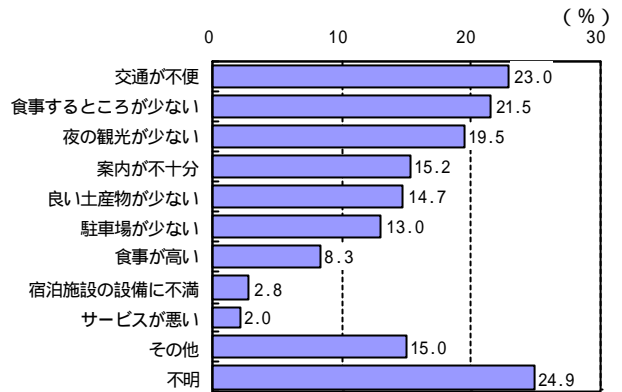
観光地奈良の問題点および改善策を考える上では、本調査で質問された「困ったことや不満に思ったこと」やアンケート最後の意見・感想を求めた自由記述欄が参考になる。「困ったことや不満に思ったこと」という質問への回答結果（図表16）をベースに、最後に若干のコメントを加えてみたい。

回答結果によると、最も多かったのは「交通が不便」(23.0%)である。本問のその他記述欄でも、「道が狭い」「混雑している」「駐車料金が安い」「タクシーが少ない」など、全体の4割近くが「道路・交通」に集中している。本調査の実施期間が主に冬のオフシーズン期間中であつたにもかかわらず、道路の混雑ぶりが問題になっている。また、駐車場が少ないことや、電車、バス、タクシーなど総合交通体系の整備不備を指摘する声も多い。

次に多いのが「食事するところが少ない」(21.5%)である。飲食に関する要望では、「閉店時間が早い」「飲食店の情報が少ない」「奈良独自の食べ物が少ない(少ない)」「(飲食店の)店員の態度が悪い」など観光客からの不満が噴出している。

3番目に多いのは、「夜の観光が少ない」(19.5%)

図表16 困ったことや不満に思ったこと



である。宿泊客にとっては、市内の飲食店、土産物店の閉店時間が早いため、夜のショッピングや飲食の楽しみが少ないことが不満の種になっている。さらに、「食」そのものの楽しみが少ないことや「良い土産物が少ない」こともこれに拍車をかけているように思われる。

4番目は「案内が不十分」(15.2%)である。「道路標識が少ない、わかりにくい」「案内掲示板(標識)が少ない」「駅前の案内掲示板の充実、パンフの配備を望む」など観光情報の充実を望む声は多い。

一方、自由意見のなかには「観光案内のパンフが充実している」や「観光ガイドの説明がよかった」など好意的意見もみられることから、情報の必要の人に情報が行き渡っていない恐れも考えられよう。

以上、奈良観光の問題点を中心にみたが、もちろんこれらが即、奈良が観光地として魅力が劣るということを示すものではない。

奈良の持つ歴史文化遺産、自然環境、景観、町並みなどは首都圏をはじめ、多くの人々に愛されている。奈良への再訪意向についての質問でも「1年内にもう一度来たい」が半数近くにのぼっており、宿泊客のなかには根強い「奈良ファン」が多数いる。こうした人たちを1人でも多く増やすためには、その人たちが発したメッセージを真摯に受け止める姿勢が奈良の人たちに求められているのではないだろうか。(井阪英夫)